

あなたの生きがいと元気を応援する

情報誌

南部ニルバーエリア

老人福祉 ふれあいタウン

第25号 平成12年3月28日発行



間所さんがわざわざ所沢からお見えになりました

間所さんは「ころわんは おにいちちゃん」などとても気持ちのあたたまる絵本をたくさん書かれています。

間所(まどころ)ひさこ人形展

3月1日から1ヶ月の間、コミュニティセンター玄関ホールが所沢市在住の詩人・童話作家の間所ひさこさんの作製した温かくてかわいらしい人形で埋め尽くされました。間所さんは「ところざわ人形劇フェスティバル」の中心メンバーとしても活躍しておられますが、忙しいスケジュールの合間を縫って、22日にはわざわざエリアに足を運んでくれました。童話にちなんだ人形も多数あり、日曜日や春休み期間に訪れた子どもたちは大喜びでした。



もくじ

平成12年度 事業計画	②～③
活き活き学園教室紹介	④～⑤
エリアの元気レポート -あんなことこんなこと-	⑥～⑧
私の思い出ばなし	⑨
知ってお得なエリア情報	⑩～⑪
エリア 利用案内 ほか	⑫



Area 知ってお得な information エリア情報

ゴールデンウィーク
GW企画



集まれチビっ子!! 集まれおじいちゃん、 おばあちゃん!!

ゴールデンウィーク期間中は毎日アニメヒテオの上映会を行い、みなさんのお越しをお待ちしています。一日中存心して遊び・くつろぎ・楽しめるエリアで、ゆっくりおくつろぎ下さい。

連休はエリアに入り浸り!

- 5月3日(水)
「おむすび座」による人形劇
- 5月7日(日)
ミニ四駆大会エリアシリーズ2000 第1戦

ミニ四駆大会 第1戦 エリアシリーズ2000

2月の雪祭りで見せた「白熱の最終戦」から早くも2ヶ月。今年も熱い戦いが見られるにちがいないっ! ギャラリーの声援も待ってるぜ!

- 日時…平成12年5月7日(日)
受付:午前9時~
レース開始:午前10時~
- 会場…屋内運動広場

**第一期(第二期)案内
水泳教室の**

夏を前に一年中泳げるエリアのプールで水泳教室を受講してみませんか。子どもからお年寄りまで幅広く募集しています。

- 開催期間…
第1期:平成12年5月10日~6月9日
第2期:平成12年6月14日~7月14日
- 場所・問い合わせ先…屋内温水プール

**県南養護老人ホーム
五施設合同運動会**

今年で23回目を迎える恒例の運動会。今年は地元開催なので燃えています。是非応援にいらしてください。

- 開催日・時間…
平成12年5月18日(木) 午前10時より
- 会場…大森町町民体育館

**さつまいも
苗植え**

地域の子もたちとお年寄りがふれあう機会として毎年行っています。長靴と移植ベラを持って気軽に参加してください。

- 開講日時…平成12年6月3日(土) 午後1時30分
- 会場…生きがい農園

編み物展

エリア活き活き学園講師と受講生の作品を展示します。楽しい会話が弾む、和気あいあいとした教室の雰囲気伝わってくるような作品を展示します。

- 会期…平成12年3月31日~4月29日
- 会場…コミュニティセンター 玄関ホール



活き活き学園

語りを聞く会

講師の佐藤さんは秋田県庁に勤務する傍ら、留学生の受け入れや異業種の交流の場として『夢群塾』を開設し、幅広い活動を行っています。今回は得意のギターを使った弾き語り、楽しいひとときを演出してくれます。

- テーマ…弾き語り『時の間(はざま)で!』
~やさしさにふれあうひととき~
- 講師…大曲仙北健康福祉センター
角館支所長 佐藤貞勝さん
- 開講日時…平成12年4月13日(木) 午後1時30分
- 会場…コミュニティセンター 視聴覚室

参加費無料

平成12年度

生き生き学園 受講生募集



～語りを聞く会～県内で活躍する方々の楽しいお話。
気軽に参加できます。

エリア入居者はもちろん県南各市町村にお住まいのみ
なさんが「地域・世代間交流を図りながら、充実した人
生を享受する」ことを目的としたカルチャー教室。入学
は随時受け付けていますが、特別な経費が必要な教室以
外は基本的に無料です。気軽に参加して、たくさんのお
友達を見つけてください。

創作活動教室

木工・陶芸（一般・初心者）
民芸（初級・中級）・切り絵
料理 他

健康づくり教室

レクリエーションスポーツ
卓球・太極拳
ゲートボール 他

趣味活動教室

お茶会・華道・コーラス
書道・囲碁・踊り
なつメロ 他

講座・講演

健康の話聞く会
語りを聞く会
移動講座 他

エリア利用状況

(4月～3月までの累計)

コミュニティーセンター

有料利用	今年度	前年度	増減
宿泊人	1,220	751	496
休憩人	23,381	21,928	1,453
会議室等時間	513	112	401
テニスコート時間	48	111	△63
屋内運動広場時間	399	420	△21
屋内温水プール時間	21,572	21,205	367
無料利用	今年度	前年度	増減
屋内運動広場人	46,087	53,867	△7,780
ふれあいセンター人	36,542	39,451	△2,909
生きがい交流広場人	4,276	3,477	799
会議室等人	2,857	2,593	264
生きがい創作館人	4,043	4,112	△69
視察等人	1,592	2,252	△660

シルバーケアセンター

利用者数	今年度	前年度	増減
利用者数人	7,135	6,557	578

診療リハビリセンター

利用者数	今年度	前年度	増減
内科人	10,648	10,926	△278
リハビリ人	6,579	6,148	431
歯科人	646	978	△332

ボランティア活動報告

(12/23～3/31)

活動日	個人・団体名
1月14日	袴形第一老人クラブ神成のみなさん（5名）
1月20日	八沢木西婦人会中ノ又部落のみなさん（4名）
1月25日	大森町敬神老人クラブのみなさん（4名）
1月28日	大森町松田老人クラブのみなさん（4名）
2月4日	大森町川西福寿老人クラブのみなさん（5名）
2月11日	大曲農業高校のみなさん（佐々木奈津子さん、後藤尚美さん、田口恵利さん、戸嶋舞子さん）
2月18日	大森町竹の会老人クラブのみなさん（4名）
2月25日	大森町長寿梅の会武道クラブのみなさん（4名） 雄勝町平愛治療院のみなさん（3名）
3月8日	高橋真子さん（～3月10、13、14、17、21、22日） 壮寿会老人クラブのみなさん（4名）
3月17日	大森町滝の上小山老人クラブのみなさん（4名）
3月22日	寺田紗都子さん、後藤京子さん（～3月23日）

この他に、年間を通じて次の方々にもボランティア（生きがい活動講師）としてご協力をいただきました。ありがとうございました。

米山 隆さん 卓球教室講師

高橋 武三さん 心の歌謡(通う)会講師
高橋 裕さん

公的介護保険のすきま を埋めるサービスを提供します

シルバーケアセンター

介護保険では「要支援」に認定された場合、1日30分程度の生活介助などで最高6,150円の自己負担が必要となります。また、自宅でサービスを受けることになりますので、電気・ガス・灯油・上下水道など光熱水費は当然ご自分の負担。その他にも、ご自分で買い物をしたり調理をしたり、お風呂を沸かして入ったりするのが大変だと感じて、原則としてヘルパーさんはあなたの都合に関係なく、決まった時間に決まった内容のサービスしかしてくれません。

そこで、エリアのシルバーケアセンターでは

- ①介護保険に関係なく友達がほしい
- ②介護保険を受けたくても認定からもれた
- ③「要支援」認定を受けたが、日常生活に不自由を感じる
- ④とにかく、お得な福祉サービスを受けたい

というご要望をお持ちの方々に、次のサービスを提供します。

1. 自宅まで送迎バスを運行（ただし、道路事情にもよります）
2. 昼食を提供します
3. お風呂（原則として介助なし）に入れます
4. 健康状態のチェックや生活全般についての相談ができます
5. 「活き活き学園」の健康・創作・生きがいの各種教室に参加できます
6. いろいろなレクリエーションを通じて友だちづくりができます
7. 花見・夏祭り・秋の祭典・忘年会・雪祭り…など季節行事に参加できます

気になる料金は

前年の納税額によりますが、生活保護世帯や市町村民税非課税世帯は1日400円。詳しくは右記の料金表をご覧ください。

区分	所得階層	利用料月額	利用料日額
A	生活保護世帯	10,000円	400円
B	市町村民税 非課税世帯	10,000円	400円
C	ABを除く所得税 非課税者	15,000円	600円
D1	所得税 15,000円未満	20,000円	800円
D2	所得税 30,000円未満	22,500円	900円
D3	所得税 60,000円未満	25,000円	1,000円
D4	所得税 90,000円未満	27,500円	1,100円
D5	所得税 120,000円未満	30,000円	1,200円
D6	所得税 150,000円未満	32,500円	1,300円
D7	所得税 180,000円未満	35,000円	1,400円
D8	所得税 210,000円未満	37,500円	1,500円
D9	所得税 210,000円以上	40,000円	1,600円

お問い合わせ先

シルバーケアセンター
☎0182-26-4606

編集後記

今年の正月は珍しく雪もなく、雪下ろしの努力も経費も節約できるものと内心ほくそ笑んでおりました。ところが二月半ばに降り出した雪は、あれよあれよという間に警戒積雪量まで達する有様。自然はうまくできている

ものだと、妙に感心する一方であらめしく天を仰いでしまします。さて、一年間本誌をご愛読いただきありがとうございます。読みやすく少しでも皆様の役に立つ情報を発信しよう心がけてきましたが、いろいろなき意見を頂戴しながら充実した誌面づくりに努めますので、どうぞ温かな目で見守っていただきたいと思います。



定期人事異動が発令されました

スタッフレポート

■転出者

▷近藤英夫（総務課長→心身障害者ココニー指導部長兼企画調整課長）▷石山久幸（養護老人ホーム施設長兼在宅老人介護センター長→阿桜園成人指導課長）▷戸嶋正（養護老人ホーム施設長補佐→阿桜園児童指導課長補佐兼児童指導係長）▷近藤浩（軽費老人ホーム施設長補佐→心身障害者ココニー開成指導課長補佐）▷後藤定美（総務課総括技能技師→心身障害者ココニー管理課総括技能技師）▷佐藤葉子（養護老人ホーム主査→阿桜園児童指導課主査）▷判田明美（診療リハビリセンター主任・保健婦→高清水圏管理課主任・保健婦）▷佐藤和也（企画指導課主事→やまばと学園管理指導課主事）▷須藤由紀子（老人専用マンション技師・看護婦→心身障害者ココニー赤光指導課技師・看護婦）▷藤原雅典（診療リハビリセンター主事→心身障害者ココニー赤光指導課主事）

■転入者

▷岩崎時雄（心身障害者ココニー総務課長→総務課長）▷小松田香代子（阿桜園成人指導課長補

佐→軽費老人ホーム施設長兼老人専用マンション施設長）▷判田実（北部老人福祉総合エリア総務課長補佐→総務課長補佐）▷佐藤正夫（阿桜園成人指導課主査→養護老人ホーム施設長補佐）▷渡部香（心身障害者ココニー管理課主任技能技師→総務課主任技能技師）▷佐藤裕子（阿桜園児童指導課主査→養護老人ホーム主査）▷高橋祐子（阿桜園児童指導課主任→軽費老人ホーム主任）

■内部異動

▷金森典（軽費老人ホーム施設長兼老人専用マンション施設長→養護老人ホーム施設長兼在宅老人介護センター長）▷小野崎和司（総務課主任→企画指導課主任）▷小野崎邦子（診療リハビリセンター主任・看護婦→老人専用マンション主任・看護婦）

■昇任

▷内藤奈美子（主事→主任）

■退職者（3月10日付・非常勤職員）

▷佐藤一芳（在宅老人介護センター運転手）

■新規採用者（4月1日付・非常勤職員）

▷奥山勝三郎（在宅老人介護センター運転手）

平成十二年度 事業計画の概要

効率的な運営を目指し、 事業内容が見直されました



明るい笑顔を応援して行きます

去る三月二十七日に行われた秋田県社会福祉事業団定例理事会において、平成十二年度における当エリアの事業計画が審議され、診療リハビリセンター機能の縮小に伴う職員三名（保健婦・看護婦・事務員）、非常勤職員一名（歯科衛生士）の減を含む内容が承認されました。これは、昨年三月に県が策定した新しい「秋田県行政改革大綱」の主旨に基づき、施策や事業の成果についての評価^①を行ったところ、^②近隣に最新の医療設備とスタッフをそろえた町立大森病院が移転してきた^③平成五年度から常勤医師がいない状態が続き、非常勤医師による診療体制をとってきたが、慢性的に収入の減少がみられるようになってきた^④入居

者の高齢化・病気の重度化が顕著になり、近隣の総合病院に入院・通院するケースが多くなってきた等、内外の社会環境の変化に伴い、縮小はやむを得ない状況となってしまったからです。

入居者の健康情報を 適切に反映した医療を提供

診療リハビリセンター医科は、診察日数や時間を限定する形で、藤本医院（西仙北町）の藤本院長、平鹿総合病院・林院長、町立大森病院・小野院長他のご協力をいただきながら事業を継続して参りますが、保健婦・看護婦・事務員はなくなりません。しかし、診察時間には養護老人ホームと老人専用マンションに配置されている二名



待合室の風景
入居者の関心はやはり「健康」

の看護婦とコミュニティセンターの事務員が業務を担当することで、今までと変わらない診療体制を提供して参ります。入居者にとって、公的介護保険が始まったことで「介護」に対する不安は和らいできていることですが、日頃から最も関心を抱いているのが「看護」の問題。施設内での生活状況を把握している看護婦が診察に立ち会うことでより医師との連携が密になり、質の高い診察と健康管



新年度の 事業計画 注目点

■コミュニティセンター

体の不自由な方々でも利用しやすいエリアの「やさしい機能」について幅広くPRし、“福祉”を必要としている人のための施設づくりを目指します。……関係する施設や団体とも協議して、県民に必要とされる施設を一緒に作ってみたいと思います。

■養護老人ホーム

公的介護保険を参考にしたケアプラン策定とサービス提供に努め、入居者のよりよい生活の継続を目指します。

■軽費老人ホーム

公的介護保険に関連する社会サービスを活用し、可能な限り入居者が生活を維持・継続できるよう援助していきます。

■老人専用マンション

公的介護保険など福祉制度の具体的な情報提供を行い、相談援助に努めます。

「保健・医療・福祉の一元的供給」は共通の「努力目標」

今回の業務見直しについては、サービス内容の必要性や効果につ

理が期待されます。また、介護用品や器具の使用・日常生活についての相談業務についても、施設職員が入居者に対して積極的に関わりを持つようにして参ります。
なお、歯科については週二回の診察が一回になり、歯科衛生士が行っていた日常的な口腔衛生指導や相談は診察日のみの対応となります。

いて幅広く県民の理解を得なくてはいけない状況があり、緊急性を要する内容であったことをご了承いただきたいと思えます。
エリアは開設当初より「保健・医療・福祉の一元的供給」を目標としてきましたが、今回の診療リハビリセンター機能縮小によって、多少なりともその内容を見直しする必要が出てきたと言えるかも知れません。しかしながら、過去十一年間の経験と実績を有効に活用するとともに、嘱託医師の協力を得ながら看護・介護の専門的知識を持った職

員が関係機関と適切な連携を取っていくことで、解消していくことは十分可能と思われれます。公的介護保険の施行など、老人福祉行政を取り巻く環境は大きく変わろうとしている昨今であり、しばらくは入居者のみなさんにご迷惑をおかけするかもしれませんが、与えられた条件で最大限のサービス提供に努めて参りたいと思えます。



診察前の問診で、入居者のベースに合わせ健康状態の再確認

平成11年度

閉講式

3月16日



みごとな「横手凧」が会場を彩りました

今年度の生き生き学園を締めくくる閉講式が、新館大広間を会場に行われました。はじめに一回生課程から博士課程までの修了者が発表され、長年に渡る各種教室の受講について表彰がありました。続いて生き生き学園・学園長でもある谷藤友一管理者が「これからは生き生き学園を地域にも積極的にアピールし、広く参加を募りたい。」と挨拶。来賓の大森町教育長大友厚氏からは、表彰を受けられた方々への喜び

博士課程修了者

4名(通算参加回数360回以上)
熊谷キヌ、佐藤キ工
藤原キヨ、吉川初枝

修士課程修了者

7名(通算参加回数240回以上)
小関ヨシ、今野ハナ子
鶴谷安蔵、西村百合一
矢野亮一、山崎甚一郎
渡部アイ
(敬称、4回生課程修了者以下は省略)



と、向学心についての励ましの言葉をいただきました。閉講式終了後は、引き続き「語りを聞く会」が行われ、横手凧の会会長木島久一氏が横手の正月の風物詩となった「かまくら凧」の実物を持参し、『生きがいを凧に託して』というテーマで講演を行ってくれました。

生き生き学園に参加して 受講生の声



雄物川町八卦在住 佐藤キヨさん
保険のセールスをしていた六十四歳の時にとつた運転免許を使って、「コーラス」・「料理」・「健康の話を聞く会」・「語りを聞く会」などに参加しています。たくさん友達もできましたし、バーマ屋さんや売店もあって、小さな街に來ているようです。



大森町重生田在住 黒田チエ子さん
孫が手を離れたのを機会に参加しています。若い頃、洋裁を習っていたので「民芸教室」を楽しみにしています。他に「踊り教室」・「なつメロ」・「語りを聞く会」などにも参加しています。元気な友達の顔を見て、楽しくお話できるのがうれしいですね。



老人専用マンション 守屋 フクエさん
「ゲートボール」などを動かす教室へ参加する機会が多いですね。「切り絵」や「民芸」もそうですが、地域の方々がたくさん参加してくれるので、友達の輪が広がっていくようです。

年間事業状況

教室数は、前年度比で二回減少していますが、参加人数は六十八名の増となつています。受講者を対象としたアンケート調査によると、参加回数が増えた理由は「講師の教え方が良くなった」「内容がおもしろくなった」などという『教室自体の質』に関する評価が四十三割でしたが、「友達ができ」「生きがいを感じる」などという『個人々人の生活の質』に関する評価も四十三割で全く同数という結果が出ました。特に入居者やシルバーバーケアセンター利用者の約七十五割以上が何らかの形で参加していることから、活き活き学園が施設入居者の日常生活を豊かにするための一助を担っていると考えられます。

去る三月十六日、活き活き学園閉講式に先立って行われた「活き活き学園推進委員会」では、これらの資料を基に検討した結果、平成十二年度の活動予定として、①広報活動にも力を入れて新規学園生の募集を行う、②各教室の成果発表の場である『秋の祭典』をよきイベント性の高い内容にしていくことなどが決議されました。なお、前述のアンケート調査で、参加回数が減った理由の中に「体調が思わしくない」という理由の方が二十四名おられました。一日も早いご回復をお祈りしております。

(2月末現在)

教室名	回数	参加人数	前年比増減
創作活動	60	726	47
陶芸	11	132	16
初心者陶芸	11	150	37
切り絵	11	256	△11
木工	9	31	△8
食品加工	11	67	1
趣味活動	7	90	12
書道	76	2,776	120
茶道	11	194	△47
華道	11	302	19
踊り	11	373	△14
コーラス	11	185	55
なまつり	11	248	12
卓球	10	1,417	80
健康づくり活動	11	57	15
太極拳	64	991	150
水泳	11	117	13
ゲートボール	11	102	20
レクリエーションスポーツ	11	236	54
卓球	20	338	25
講演・講座	11	198	38
語りを聞く会	15	1,065	△249
健康講座	6	475	△235
特別講座	5	408	109
合計	4	182	△123
合計	215	5,558	68

の成果発表の場である『秋の祭典』をよきイベント性の高い内容にしていくことなどが決議されました。なお、前述のアンケート調査で、参加回数が減った理由の中に「体調が思わしくない」という理由の方が二十四名おられました。一日も早いご回復をお祈りしております。

講師を代表して

南部シルバーエリアと私

切り絵教室講師

石垣 舜一

私がエリアで「切り絵教室」の講師としてお付き合いを始めてから、もう10年近くになりました。始めて招かれたのは平成3年の10月で、当時私は湯沢市でも「切り絵同好会」の講師をしていましたが、初代管理者の藤原さんと同郷であったことや、切り絵同好会に参加している女性会員と藤原さんの奥様が知り合いだったことなどがあり、引き受けることにしました。

当初は、20数名の受講生がおりましたので、切り絵同好会の女性会員を助手として連れてきて教えた記憶が今でも残っています。それ以来、入れ替わりがあつて受講生も減りましたが、当時からの参加者として、老人専用マンションに入居している守屋さんと長谷山さんが頑張ってくれています。

その間、夏休みの親子体験学習（チャレンジ教室）として、切り絵やその型染めなどを行いましたが、毎年200人を越える参加者があり、手が回らずに職員の方の他、守屋さんと長谷山さんに手伝ってもらったことも記憶に新しいところです。

今まで転勤などで何人が担当職員は替わりましたが、そうした職員の方々や、たくさんの受講生の方々（亡くなられた方も何人かいらっしゃいます）とも交流を深めることができました。こうした出会いは私にとって心の支えにもなっており、ここまで続けることができたのも、そのお陰だと思っております。今後何年続けられるかわかりませんが、頑張ってみたいと思っております。



小雪にも負けない元気な子どもが
たくさん参加



第11回 エリア雪まつり

2/11

エリアの 元気 レポート

REPORT

子どもからお年寄りまでが楽しめるイベントやゲームを多数用意して盛大に行われました。職員がテレビに生出演して宣伝した成果があったのか、男鹿市や雄勝町など遠方からの参加も含め、来客数は約二、一〇〇名。ミニ四駆大会、99エリアシリーズ最終戦をはじめ、屋台や各種ゲームでは子どもたちの歓声が響きました。地元大森町民謡同好会のステージやせんざい・甘酒の無料サービスにはお年寄りが長蛇の列を作って賑わいました。夕方にはミニかまくらに明かりが灯され、幻想的な雪景色がエリアを包みました。



輪投げゲームには子どももお年寄りも参加



オープニングの「ひまわり太鼓」熱演に観衆からは大きな拍手が。

ミニ四駆大会エリアシリーズ'99 第5戦



全員がライバルだ!!
「速く走ってよオ～」

シリーズの最終戦であり、年間総合ランキングの行方を左右する白熱した一戦となりました。コースは全長約180mと今までで最長となる一方、カーブの直後には2箇所のコースチェンジャーが設けられ、難易度は高め。接戦の結果、男鹿市から参加した細井祐哉くん(小学5年生)が優勝しました。雪祭りのイベントとして行われたせいか、たくさんのギャラリーがレースの行方を注目していました。



年間総合 ランキング	優勝	熊 沢 卓 哉くん
	準優勝	小山田 雄 太くん
	第3位	沼田 昂(こう)くん



100回記念を 迎えて

前子どもと老人のふれあいセンター長
齋藤春直さん

振り返って思えば、あっという間でした。人生の節目節目を彩ってきた数々の曲を思い出していただき、生活の励みにしてもらえれば……と考え始めたことを思い出します。参加者は増える傾向にあるので、私も体の続く限りがんばりたいと思っています。

平成4年度から研修室を使って有志ではじめたこの会も、回を重ねてついに100回を数えました。今では新館大広間を会場に毎月1回のペースで行っており、毎回約30名の出演者が得意のナツメロや踊りを披露しています。また、観客もエリア入居者を中心に町内外から訪れるなど、平均で約100人の参加があります。当日は、参加者全員に手作りの歌集が配られ、前ふれあいセンター長で「なつメロと踊りの会」をはじめられた齋藤春直さんには感謝の花束が贈られました。

2/18



大雄村 江村正一
さんの熱唱

月一回の「なつメロ」を
たくさんの方が楽しみ
にしています

100回記念ステージ

なつメロと踊りの会



大森町老人クラブ連合会が主催するスマイルボーリング大会が屋内運動広場を会場にして行われました。町内には二十二の老人クラブがありますが、事務局となっている大森町社会福祉協議会によると今大会には二十九チームで計百六十五名（うち女性が三分の一）が参加。冬場の健康づくりはもちろん、男女のハンディなくゲームが行えるとあって年々規模が拡大してきているとのこと。優勝は猛特訓の成果を発揮した「長寿竹の会Bチーム（上野・中野）」。エリアチームは残念ながら予選敗退でした。

大森町老人クラブ連合会 スマイルボーリング大会



2/24

みんなが仲良く遊べるニュースポーツです

外は大雪だけ
ど運動広場は
熱気ムンムン



J A秋田ふるさとドライフラワー＆ハーブ会のみなさんを講師に迎え、ラベンダーの香りあふれる「やきもち」を作りました。エリアの農園で採れたハーブを利用した料理教室は、すでに夏休みや冬休みのチャレンジ教室では行っていますが、入居者や一般の方々を対象にしてというのは初めて。シルバーケアセンター利用者や町内の方々約20名が参加してくれ、簡単に来ておいしかったと好評でした。

料理教室
—ラベンダー入り
—やきもち—

2/26



町内からたくさんの参加者が
ありました

スライドを使ったわかりやすいお話でした



健康の話聞く会

2/25

「あきらめないで尿失禁」というテーマで、仙北組合総合病院泌尿器科科長市川晋一先生による講演が行われました。エリアでは「なんでも相談室」に勤務する判田保健婦が、尿失禁で悩んでいる方々の相談にのじたり、情報提供・啓蒙普及活動・仲間づくりを行う「秋田コンチネンス協会」の会長ということもあり、今回の講演内容には施設を挙げて取り組んでいます。尿失禁は決して特別なことではなく、加齢に伴って誰にでも起こり得ることであり、専門家の指導で予防や対策をとることができることを市川先生が丁寧に説明してくれました。一人で悩まず、いつでも相談に来てください。

福祉一日×七

「介護保険」について①

いよいよ4月から介護保険がスタートしますが、この制度は介護の問題を社会全体で支えていこうという仕組みです。エリアには3つの入居施設と1つの利用施設がありますが、今回は軽費老人ホームと老人専用マンションの入居者は介護保険制度をどのように使っていけばよいのか解説してみたいと思います。

軽費老人ホームと老人専用マンションは、特別養護老人ホームや老健施設などと違い、介護保険制度では「在宅」という位置づけになります。したがって、介護保険のサービスを受けようとする場合は、一般の家庭の方々と同じように『本人もしくは家族が大森町健

康支援課（町立病院に隣接しています）に要介護認定の申請』を行います。申請を受け、町では職員が委託を受けた調査員を派遣し、入居者の心身の状況調査を行い、介護認定審査会における審査判定→認定通知→サービス計画の作成という段階を経てサービスの利用が始まります。

エリア内には介護保険制度を使った介護サービスを提供できる施設はないので、介護サービスを必要とする場合は、エリアの外部から受けてもらうこととなります。今後は、入居者自身が身体状況や介護サービスの内容について多くの情報を取り入れ、より条件の良いサービスの提供を受けられるよう、エリア職員・身元引受人・かかりつけの医師などと相談しながら選んでいく時代になったと言えるでしょう。

あの頃 あの土地 私の思いはばなし

退去証明書 予防接種証明書

軽費老人ホーム
小野典治さん

中国残留孤児が肉親探しに訪日する報道を耳にするたび、私の脳裏には妻とともに五歳・三歳・一歳の三人の子どもを連れて満州から引き上げた時の苦勞が甦ります。あの時にもし子どもを他人の手に預けてしまっていたら……と考えるとこのニュースは他人事ではありません。

敗戦―満州からの旅立ち 『退去証明書』

昭和十四年、私は関東軍経理部に勤務するため満州に渡り、軍施設の建設事務に携わっていました。当時、人口二百万人といわれたハルビン市には大きな日本人学校もあり、たくさんの日本人で賑わっておりまして、市内が青天白日旗で埋め尽くされ、玉音放送が流れる時まで、この地から排斥されることになろうとは思っても思ってもいませんでした。

敗戦の報から間もなくすると、強奪や食糧難など治安の悪化が顕著になってきたため、翌二十一年八月十九日、八十人ほどの日本人と共に私と家族は市から『退去証明書』の発行を受け、新京（今の長春）の日本人会を頼って住み慣れたハルビン市を後にしました。

体力・衛生状態の極限― 『予防接種証明書』

新京までは貨車の荷台で揺られ、鉄道が破壊された場所は幼子を負ぶつての旅となりました。焼け付くような日中の暑さと、凍てつくような夜の寒さは私たち家族の体力や思考力を奪い、乳飲み子だけは現地に預けようと考えたことも一度や二度ではありません。

やっとの思いで到着した新京の満鉄官舎は蚤・シラミが大量に発生し、発疹・チフスで命を落とす子どもやお年寄りもかなりの数に上っていました。ここで予防接種を家族全員が受け、『予防接種証明書』を発行してもらったのです。が、広大な中国大陸にあつて個人を証明するのは、薄っぺらな『退去証明書』と小さな『予防接種証明書』のみだったので、それでも、万が一の時は子どもたちにそれぞれの証明書を持たせておけば、離ればなれになつてもいつかは会える日が来るに違いないと身につけさせました。

戦争に翻弄され続けた私の宝物

家族五人が故郷の館台村（現在の雄物川町館

ハルビン市が発行し、退去証明書（右）と長春市が発行した『予防接種証明書』（左）



合)に無事着いたのは九月の彼岸の終わりだったと記憶しています。その後、豆腐店を営んで五人の子どもを育て上げましたが、正直、決して楽な生活ではありませんでした。政府の方針で満州に渡つても、敗戦後は何の援助も無く、恩給すら文官で期間が短いからといって支給されません。ただただ、「家族を守る」ことのみ人生を費やしてきたような気もしますが、この『退去証明書』と『予防接種証明書』を見るたびに、どんな困難にあつても子どもを手放さなかつた幸せと誇りを感じるので。



満州で苦勞を共にした「糟糠の妻」ヤエさんと仲むつまじく暮らしています